阪神・淡路大震災から15年

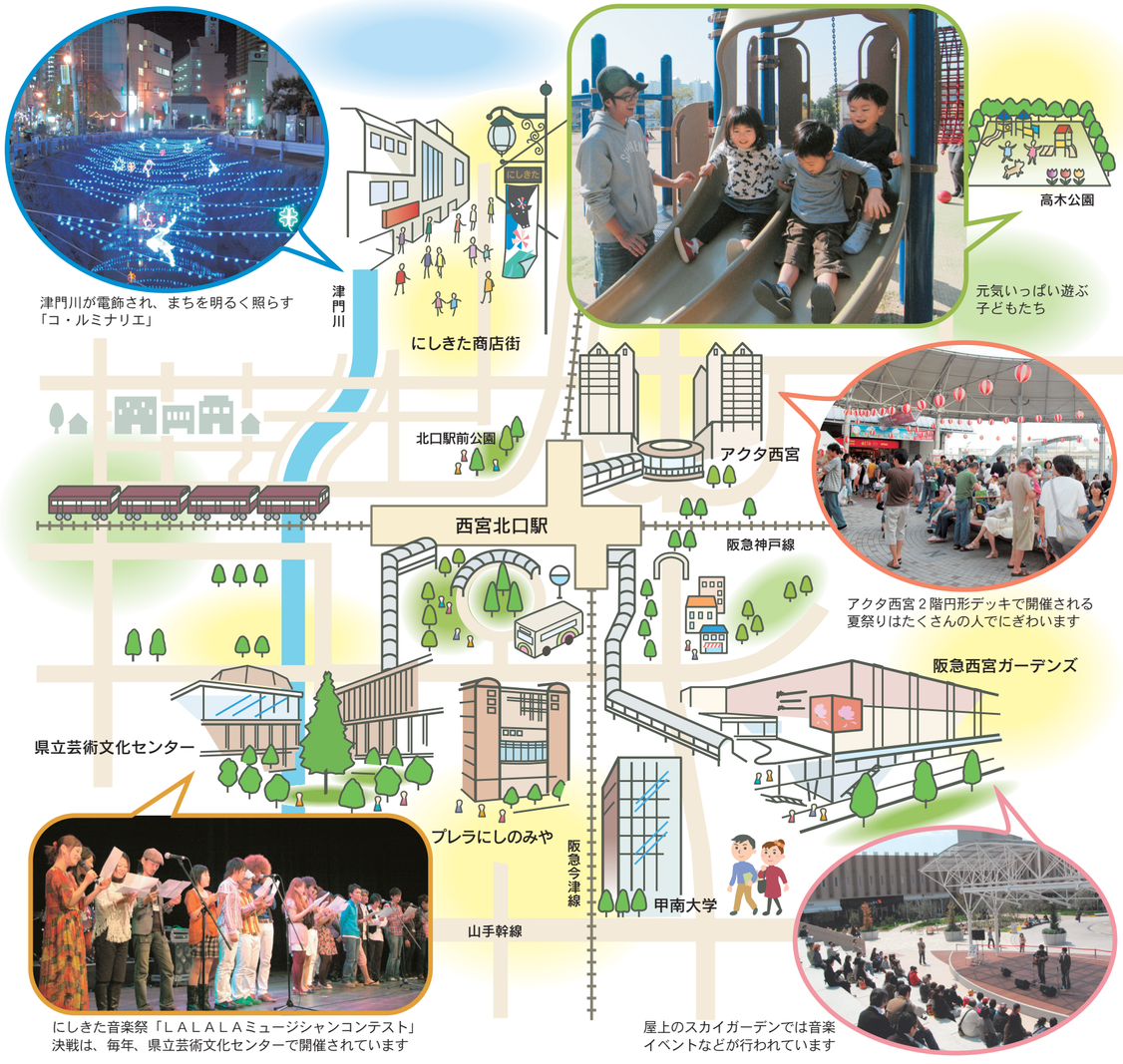
人が集い 活気あふれる「西宮北口」

豊かなコミュニティとにぎわいのあるまちへ

阪神・淡路大震災から15年―。

西宮北口地域は、県立芸術文化センターが建設され、大型商業施設が開業するなど、まちににぎわいと活気があふれてきています。また、阪急西宮北口駅の乗降者数は、梅田、三宮に次ぐようになり、人の交流が盛んになってきています。

西宮北口のまちづくりに深く関わってきた人に、これまでの取り組みや今後の展望などについてメッセージをいただきましたので紹介します。



津門川が電飾され、まちを明るく照らす「コ・ルミナリエ」

元気いっぱい遊ぶ子どもたち

アクタ西宮２階円形デッキで開催される夏祭りはたくさんの人でにぎわいます

にしきた音楽祭「ＬＡＬＡＬＡミュージシャンコンテスト」決戦は、毎年、県立芸術文化センターで開催されています

屋上のスカイガーデンでは音楽イベントなどが行われています

震災を乗り越えて 住んでみたい 訪れてみたいまちへ

西宮市長　山田　知

明けましておめでとうございます。市民の皆さんには、希望に満ちた新年をお迎えのことをお喜び申し上げます。

西宮北口地域は、市民の皆さんと共に長きに渡り震災復興事業に取り組んできました。現在は、ハード面ではほぼ復興を成し遂げることができました。今後は、南地区における阪急今津線高架事業が平成22年度に完了し、道路交通の円滑化が図られます。北西地区は24年度にかけて、駅前公園の再整備や津門川の遊歩道整備など快適な歩行者空間が形成されます。

西宮北口地域は、交通の利便性がよく、優れた住宅環境と充実した商業施設、そして県立芸術文化センターをはじめプレラホールなどの文化施設、大学を有するアメニティー豊かなまちです。連日、多くの人が訪れ、にぎわいを見せています。このようなまちの魅力にひかれて子育て世代を中心に人口も増加しており、文教住宅都市西宮の特性を集約したまちといえます。

この地域がこれらの特性を生かした地域活性化に取り組み、阪神間を代表するまちとして、活発な芸術文化の交流とにぎわいのあるまちに発展することを期待しています。

私は、現在病気療養中で市民の皆さんにご迷惑をおかけしておりますが、一日も早い回復を目指します。そして、住んでみたい、訪れてみたいと思える、また安心して暮らせる魅力あるまちづくりに、これからも市民の皆さんと共に取り組んでまいります。

西宮北口 ミニ歴史コーナー

阪神・淡路大震災以降、西宮北口地域のまちなみは大きく変わりました。震災以前の西宮北口地域について、写真を交えながら紹介します。

商店街、市場、スタジアム

阪神・淡路大震災以前、阪急西宮北口駅の北東には、昔の風情を残したにぎわいのある北口本通り商店街や北口市場等があり、南東には阪急西宮スタジアムがありました。また、住宅街としての特徴も有していました。阪急西宮スタジアムでは、プロ野球やアメリカンフットボール、競輪などが開催されていたほか、震災時には救助活動の拠点のひとつとして使用され、避難所にもなりました。

震災以降、商店街や市場の跡地には再開発ビル「アクタ西宮」が建設され、阪急西宮スタジアムの跡地は阪急西宮ガーデンズとなっています。

平成５年の西宮北口周辺。写真右下にあるのは阪急西宮スタジアムです

ダイヤモンドクロスとは

現在、今津と宝塚を結ぶ阪急今津線は、西宮北口駅をはさんで分断されていますが、昭和59年までは一本で結ばれていました。そのため、西宮北口駅構内では、今津線と神戸線が平面交差していました。この交差は「ダイヤモンドクロス」と呼ばれました（左写真参照）。

しかし、人口の大都市集中などに伴い、輸送力向上や安全対策が大きな課題となり、ダイヤモンドクロスが解消されるに至りました。

昭和58年の西宮北口周辺。神戸線を走る電車に対し、縦に伸びる線路は今津線

協働のまちづくり

北口・高木まちづくり協議会
副会長　土井　成三さん

コミュニティの大切さを語り継ぐ

阪神・淡路大震災により、市内で最も打撃を被った北東地区。現在は「高木公園」をはじめとする多くの公園に囲まれて、閑静な住宅街が広がっています。震災前のこの地域を知っている人は、市場や狭い路地が無くなり少し寂しさを感じると思いますが、再建された法心寺と大日寺、そして高木八幡神社と熊野神社を結ぶ道路が昔の面影を残しています。

私は、震災後すぐに、北口駅北東地区のまちづくりに参加しました。毎日、子どもの声の絶えない「高木公園」を見るたびに、このまちづくりが、ようやくここまできたかと感慨深いものがあります。しかしこのまちは、多くの方々の犠牲の上に成り立って復興した「まち」であることを決して忘れてはいけません。

現在この地域には、震災後移り住んだ方が圧倒的に多くなっています。その方々に、このまちの歴史を語っていくことで、震災の怖さやコミュニティの大切さを知っていただきたいと思っています。また、多くの方々に地域のさまざまなイベントに参加いただくだけでなく、まちづくり活動にも参加いただき、より一層「安全で、うるおいとコミュニティのあるまち」を目指していきたいと考えております。

共に歩み 共に生きる

瓦木地区民生委員・児童委員　山田　幸子さん

笑顔で生きがいをもって暮らせるように

震災から15年、私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。

この地域は、アクタ西宮や阪急西宮ガーデンズなどの商業施設、県立芸術文化センターをはじめとする多くの文化施設、大学が立地する恵まれた環境になりました。たくさんの人が集まり、子育て世代や高齢者の人口も増えてきています。

社会は、少子高齢化や核家族化、近隣関係の希薄化の進展など複雑、多様化しています。その中で次代を担う子どもたちや高齢者の皆さんが、住み慣れた地域で安心してのびのびと豊かに、笑顔で生きがいをもって暮らせる環境をつくることはますます重要になってきています。そのためには、行政だけでなく、地域住民による助け合い、つまり地域福祉の充実が求められています。

民生委員・児童委員として、お互いに顔の見える距離で困ったときにいつでも助け合える環境づくりに努めています。そして、子育て中の保護者や高齢者などが気軽に集う場を提供し、仲間づくりや、世代を超えた助け合いと学びの関係を築くなかで、みんなが充実した生きがいのある生活を送れるよう活動してまいりたいと思います。

北口地域に、地域住民による支え合いと助け合いのネットワークが広がり、だれもが安心して暮らせるぬくもりのあるまちになっていくことを願っています。

ダイヤモンドクロスのまち

にしきた商店街　会長
矢田貝　充彦さん

４つの地域の連携でにぎわいを

西宮北口は昔、阪急電車が平面交差している日本でも珍しい地域でした。

この「ダイヤモンドクロス」によって４つの地域に分かれたまちをひとつにしなければと感じたのが、あの阪神・淡路大震災の後です。それは北東に竣工した再開発ビル「アクタ西宮」の中に商店街が開店し、南西には県立芸術文化センターがオープン、そして南東の阪急西宮スタジアム跡地には阪急西宮ガーデンズが建設されることを知ったときです。西宮に新しいまちが出現すると感じました。

わが商店街への影響も当然心配されました。しかし、共存共栄を図っていくためには、各地域の個性を生かしながら、４つの地域が連携してまちの活性化を行っていくことが大切であると考えています。この新しいまちが芸術性に富み、都市品格を備えた魅力的なまちへと成長し、大阪や神戸から多くの人が訪れるにぎわいのあるまちとなるよう、にしきた商店街もその役割を担っていきたいと思います。

震災以後、「緑風（かぜ）の街にしきた」をスローガンに、緑が多く、乳母車が安心して通れる、心がいやされるような下町風情の残る商店街づくりに努めてきました。

今後もこの特色を生かしながら、地域の皆さんと共に新しいまちのにぎわいづくりに取り組んでいきたいと願っています。